

# 第 2 回信州アディクションセミナー報告書

2011 年 10 月 8 日

信州アディクションセミナー実行委員会 事務局

下記のように第 2 回信州アディクションセミナーを開催しましたので、報告します。

## 1. 日時、場所

2011 年 9 月 25 日 10:00～17:00

松本市あがたの森文化会館（長野県松本市 3-1-1）

## 2. 参加人数

参加人数 280 人 託児数 9 人 アンケート回収数 93

## 3. 参加者のプロフィール（アンケートより）

### 男女比

男性 41%、女性 55%。

### 年代

40 代・50 代が最多。20 代～70 代まで幅広く。未成年者の参加は託児を除けばありませんでした。

### 居所

開催地のある中信地方（長野県中央部）が 33%。その他長野県内全域から 26%。40%は県外から参加（昨年より県外が増加）。

### 立場

アディクション本人が 41%。家族が 20%。専門家・援助職が 16%。その他一般が 12%。

### 目的

参加目的を複数回答で尋ねたところ、アディクションに関する情報を求める人が 2 / 3 と最多でした。自助グループに関する情報を求める人が 1 / 3。未成年者飲酒や相談先についての情報を求めた人はいずれも 5%程度でした。

### 認知機会

セミナーの開催をどこで知ったか尋ねたところ、2 / 3 が人に教えられたり誘われたりしたと回答しました。内訳は相互援助（自助）グループが最も多く、ついで医療・相談機関、家族の順です。

1 / 4 は医療機関・相談機関でのポスターや配布されたチラシを見てきた人でした。インターネット上の情報に接した人が昨年より増えて 2 割ほどでした。

今回は新聞媒体への露出は少なかったのですが、新聞のイベント欄で知ったという人も 1 割ありました。

#### 4. 効果

午前中は未成年者飲酒とアディクションの関係について、未成年者飲酒を「自ら健康を害する行為」ととらえて、自傷行為の観点から松本俊彦先生に講演をしていただきました。アンケートの感想からは先生の話がわかりやすいと好評だったことがうかがえます。

アンケートでは、1/2の人が「未成年者飲酒とアディクションには関係がある」と認知しています。この割合は昨年第1回より低いものの、全体の2/3の人々は松本先生の講演を聞いて意見を変えたとしており、講演の効果のほどがうかがわれました。

午後の各団体の体験発表、分科会にも多数の参加者がありました。アンケート回答からは半数以上が既に相互援助（自助）グループに参加していましたが、未参加の人の中にも今後参加したいという回答が多数を占め、誘導効果が認められました。

感想詳細については、別紙アンケート集計をご覧ください。

#### 5. 反省点

未成年者飲酒とアディクション（依存症）の関連を取り上げましたが、本年も教育関係者の関心を引き起こすことができず、実行委員会の把握している限りでは、中学・高校関係者の参加はありませんでした。広報について反省点を残しました。

#### 6. 当日実施内容

##### 午前のプログラム

##### 基調講演（90分）

『若者の飲酒の背景にあるもの～「故意に自分の健康を害する」症候群』

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

薬物依存研究部診断治療開発研究室長 自殺予防総合対策センター 副センター長

医師 松本俊彦

##### 質疑応答（20分）

##### 午後のプログラム

##### 体験発表実施団体（12分×14団体）

アルプス断酒会、リカバリー・パレード、ギャマノン、ナラノン、依存症からの回復研究会、

NABA、ACA<sup>1</sup>ラッキークローバージャムG、HA、DA、GA、AA、NA、Peerful、SPJ

##### 分科会実施団体（80分、17団体）

AA、DA、NA、ACA<sup>2</sup>、HA、GA、あかりプロジェクト、SPJ、SA女性クローズド、EA、

ACODA、依存症からの回復研究会、ギャマノン、摂食障害合同（NABA、あかりプロジェクト、Amy、Peerful）、ナラノン

1: Adult Children Anonymous

2: Adult Children of Alcoholics

アピールタイム参加団体（5団体）

リカバリー・パレード、とちぎ AKK 研究会、AA 長野地区、AA ラウンドアップ、ナラノン

#### 配布資料集

資料集冊子 A4 版 110 ページ オフセット印刷 および同封資料

長野県内の団体

AA、ACA<sup>1</sup> ラッキークローバージャム G、ACODA、Amy、EA、GA、NA、Peer、Peerful、  
ギャマノン、ジョイフル、断酒会（長野県断酒連合会）、長野 AC、長野ダルク

県外の団体

ACA<sup>2</sup>、AG、DA、HA、NABA、OA JAPAN、RANKA、SA、SCA 東京 G、SLAA、SPJ、  
あかりプロジェクト、あびこミーティング、依存症からの回復研究会、浦和まはる相談室、  
ジャパンマック、とちぎ AKK 研究会、ナラノン、リカバリー・パレード、ワンダーポート

追加資料（パンフレットなど）

AA、ACODA、HA、NABA、SPJ、浦和まはる相談室、ジョイフル、長野県の自助グループ  
案内

当日各団体配付資料多数

その他

託児を実施（9名）

午前中の講演は手話通訳を実施。

#### 7．報道

前週木曜日（9月22日）および金曜日（9月23日）に信濃毎日新聞にイベント告知記事が掲載されました。特に金曜日のものは内容もくわしく告知効果が大きかったと思われます。

また産経新聞、市民タイムスに告知記事が掲載されました。産経新聞の記事は同社のホームページにも掲載されました。

当日メディアの取材はなく、事後記事の掲載もありませんでした。

#### 8．実行委員会活動

実行委員会メンバー20人（含む事務局2人）

内訳：AAメンバー8人、ACAメンバー1人、ACODAメンバー1人、GAメンバー5人、ギャマノンメンバー4人、一般1人。

この他、長野ダルク、Amyメンバーほか様々な皆さんに協力をいただきました。

また当日は実行委員会の枠を越えて、多数の方々にご協力を頂きました。

実行委員会開催（松本市西部公民館）

2010年 10/24、11/28、12/26

2011年 1/30、2/27、3/20、4/17、5/22、6/19、7/18、8/21、9/11

印刷作業 5/10、6/22、9/11（松本市市民活動サポートセンター）

## 9 . 謝辞

当日会場まで足を運んで下さった多くの皆様に感謝申し上げます。参加いただいた団体の皆さん、資料提供をいただいた団体の皆様に感謝いたします。さまざまな医療機関、相談機関、行政機関、相互援助（自助）グループの方々、また信州アディクションセミナーを応援して下さる方が、広報に協力していただきました。またマスメディアの方々にもご協力をいただきました。それぞれに感謝申し上げます。

会場を提供して下さった松本市、またご後援をいただきました長野県精神保健福祉センター、長野市、松本市、長野県社会福祉協議会、長野市社会福祉協議会、松本市社会福祉協議会に感謝いたします。とりわけ松本市健康づくり課、生涯学習課の皆さんには、駐車場管理・機材貸し出しなど大変お世話になりました。

順番は最後になりましたが、助成をいただいたアサヒビール株式会社の未成年者飲酒予防基金に厚く感謝申し上げます。

今後、第3回、第4回と続けてまいりますので、皆様におかれましてはなにとぞ引き続きのご協力をお願いいたします。

実行委員会一同